

「2015 年度 関東学院大学自己点検・評価シート」  
に対する評価報告書

関東学院大学 大学評価委員会

2017 年 2 月

## 目 次

はじめに .....	1
「2015年度 関東学院大学自己点検・評価」に対する評価（概括） .....	2
基準1 理念・目的 .....	2
基準2 教育研究組織 .....	2
基準3 教員・教員組織 .....	2
基準4 教育内容・方法・成果	
4-1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 .....	3
4-2 教育課程・教育内容 .....	3
4-3 教育方法 .....	3
4-4 成果 .....	3
基準5 学生の受け入れ .....	4
基準6 学生支援 .....	4
基準7 教育研究等環境 .....	4
基準8 社会連携・社会貢献 .....	4
基準9 管理運営・財務	
9-1 管理運営 .....	5
9-2 財務 .....	5
基準10 内部質保証 .....	5

## はじめに

2012年度に関東学院大学評価委員会規程が改正され、2013年度から大学評価委員会は外部有識者を構成員の半数以上として設置された。改正後の本委員会の任務は、①自己点検・評価に係る点検・評価項目の評価、②自己点検・評価結果の客観性及び妥当性に関する評価、③大学の中長期計画及び年次計画（事業計画）の客観性及び妥当性に関する評価、④その他、学長が必要とする重要事項に関する評価の4項目である。

今回は、②自己点検・評価結果の客観性及び妥当性に関する評価として、『2015年度 関東学院大学自己点検・評価シート』に対する評価を行った。大学評価委員会としての所見を集約したものが本評価報告書である。

自己点検・評価報告書は2014年度にシート方式に改められ、今回も大学全体及び各学部・研究科においてシートの記述を行い、『2015年度 関東学院大学自己点検・評価報告シート』として取り纏められている。今回の評価においては、基準、評価項目、評価の視点に対する「S、A、B、C」という評価を行わず、大学全体及び各学部・研究科における点検・評価の記述に対する所見を基準（シート）ごとに記載するという方式を採用し、記述と所見の対応がわかりやすい形とした。また、それらの所見を全体として見たときの概括として基準ごとにまとめている。

2014年度は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が大学全体として再策定されている。2015年度は、学部において再策定が行われ、全学的な3ポリシーとの整合性が図られている。今後、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示された学修成果が得られたかどうかの検証方法について全学的な検討が望まれる。

また、自己点検・評価においては、年度始めに方針・目標等を設定し、1年間の取り組みを振り返り評価していくことになる。シートの記載の中で設定された方針・目標等があるものの、その年度の実施による「効果が上がった・改善された事項」「改善すべき事項」に記載がないものが見受けられ、自己評価の評価の妥当性が確認できないものがあった。さらに、今年度より「本学における自己点検・評価の評定（S、A、B、C）方針」が設定されているが、この方針と明らかに相違した評価も見受けられた。今後、自己点検・評価シート方式の継続・発展のためにも、シートという方式、評価、評定の方針の主旨の徹底を図り、より一層の高いレベルでの自己点検・評価が行われることを期待する。

なお、本報告書は各学部・研究科においてなされた自己点検・評価の2015年度終了時点についての評価であり、2015年度にされた自己点検・評価で明らかになった課題等のうち、2016年度中に既に改善対応されている項目もある。今後も自己点検・評価活動をとおしてより良い改善方策が迅速に進むことを期待する。

## 「2015年度 関東学院大学自己点検・評価」に対する評価（概括）

### 基準1 理念・目的（大学全体・学部・研究科）

理念・目的の適切性について、概ね適切に設定していると判断できます。

大学構成員への周知及び社会への公表が行われていると判断できます。

理念・目的の適切性について定期的に検証を行い、さらに充実していくことを期待します。

研究科においては、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の改訂にあわせて理念・目的の整合性を整備されることに期待します。

### 基準2 教育研究組織（大学全体）

理念・目的に基づいた教育研究組織を編成していると判断できます。

また、学術の進展や社会の要請に応じてさらに改変を続けようとしていることが評価できます。

教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っている と判断できます。

産官学連携支援に関わる複数の部署での業務の切り分け・棲み分けを明確にして効率的に遂行することを期待します。

### 基準3 教員・教員組織（大学全体・学部・研究科）

求める教員像及び教員組織の編制方針を明確にし、教育課程に相応しい教員組織を整備していることを評価します。ただし、専任教員の年齢構成について、一部の学部等においては、改善の検討が期待されま

す。

教員の募集・採用・昇格は適切に行われていると判断できます。

教員の資質の向上を図るための方策を講じていることを評価します。FD活動がさらに浸透していくことを期待します。

## **基準4 教育内容・方法・成果**

### **4-1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針（大学全体・学部・研究科）**

教育目標に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が作成され、明示・公表されていることを評価します。

研究科については、大学院全体の3ポリシーに基づいた各研究科の3ポリシーが策定され体系化されることを期待します。

大学構成員への周知及び社会への公表が行われていることを評価します。

周知方法の有効性については検証が行われることを期待します。

教育目標、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の適切性について定期的な検証を行っていることを評価します。新設学部については、今後定期的な検証が行われていくことを期待します。

### **4-2 教育課程・教育内容（大学全体・学部・研究科）**

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成していることを評価します。

各研究科においては、コースワークとリサーチワークのバランスの取れた科目配置になっていることを評価します。

シラバスチェック、履修系統図の導入を進めたことを評価します。今後のカリキュラム・マップの導入と効果的な運用を期待します。

### **4-3 教育方法（大学全体・学部・研究科）**

教育方法、学修指導、成績評価、単位認定が適切に進められ、教育成果の定期的な検証が実施されていることを評価します。

シラバスチェックが組織的に行われていることを評価します。今後カリキュラム・マップなどと連動したチェックが有効に機能し、教育課程や教育内容・方法の改善に結びつくことに期待します。

### **4-4 成果（大学全体・学部・研究科）**

学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われていることを評価します。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示されている学修成果の評価について、全学的な検討及び合意形成が望まれます。

ポートフォリオ、ルーブリックなどの調査が進められ、一部学部において、導入されていることを評価します。

今後の全学的な展開に期待します。

## **基準5 学生の受け入れ（大学全体・学部・研究科）**

学部の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）も大学全体との整合性をとり再策定されたことを評価します。研究科については、大学院全体のポリシーと整合性のあるポリシーを策定することを期待します。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜が行われていることを評価します。

収容定員に基づく在籍学生数の管理について、概ね適正であることを評価します。ただし、一部学部・専攻においては、定員充足率の向上を期待します。

学生募集及び入学者選抜が、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っていることを評価します。

## **基準6 学生支援（大学全体）**

学生支援に関する方針は概ね明確と判断できます。

学生への修学支援は適切に行われていると判断できます。

学生の生活支援は概ね適切に行われていると判断できます。

学生の進路支援は適切に行われていると判断できます。

学生対象の説明会などの実施においては、全学生が学部による差異なく受けられることを期待します。

## **基準7 教育研究等環境（大学全体）**

教育研究等環境の整備に関する方針は概ね明確と判断できます。

十分な校地・校舎及び施設・設備が整備されていると判断できます。

図書館、学術情報サービスは十分に機能していると判断できます。

教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されていると判断できます。

研究倫理を遵守するために必要な措置がとられていると判断できます。

教員業務の整理と見直しをとおして研究活動に専念する時間を拡充することを期待します。

## **基準8 社会連携・社会貢献（大学全体）**

社会との連携・協力に関する方針は概ね明確と判断できます。

教育研究の成果が適切に社会に還元されていると判断できます。

学外機関との関係を深め、産官学連携ネットワークを構築・充実強化したことが評価できます。

## **基準 9 管理運営・財務**

### **9-1 管理運営 (大学全体)**

管理運営方針が明確になり、明文化された規程に基づいて、学長の権限を強化する意思決定プロセスを構築し、管理運営が行われていると判断できます。

大学業務を支援する事務組織が設置され、機能していると判断できます。

事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じていると判断できます。

### **9-2 財務 (大学全体)**

教育研究を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤が確立されていると判断できます。

予算編成及び予算執行は適切に行われていると判断できます。

学内者の意識向上を図ることによる学生確保及び経費削減の向上に期待します。

## **基準 10 内部質保証 (大学全体)**

自己点検・評価の実施及び結果を公表し、社会に対する説明責任を果たしていると判断できます。

内部質保証システムが整備されていると判断できます。

自己点検・評価の当年度評価を PDCA サイクルに取り入れて内部質保証システムを機能させていることが評価できます。

2016年度 関東学院大学評価委員会

委員長 前田 直樹（本学理工学部教授）

八木 裕之（横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授）

西岡 宏（本学後援会）

鈴木 正（本学燦葉会会長）

本田 耕一（本学法学部教授）

南里 竜生（本学大学経営課自己点検・評価担当課長）